

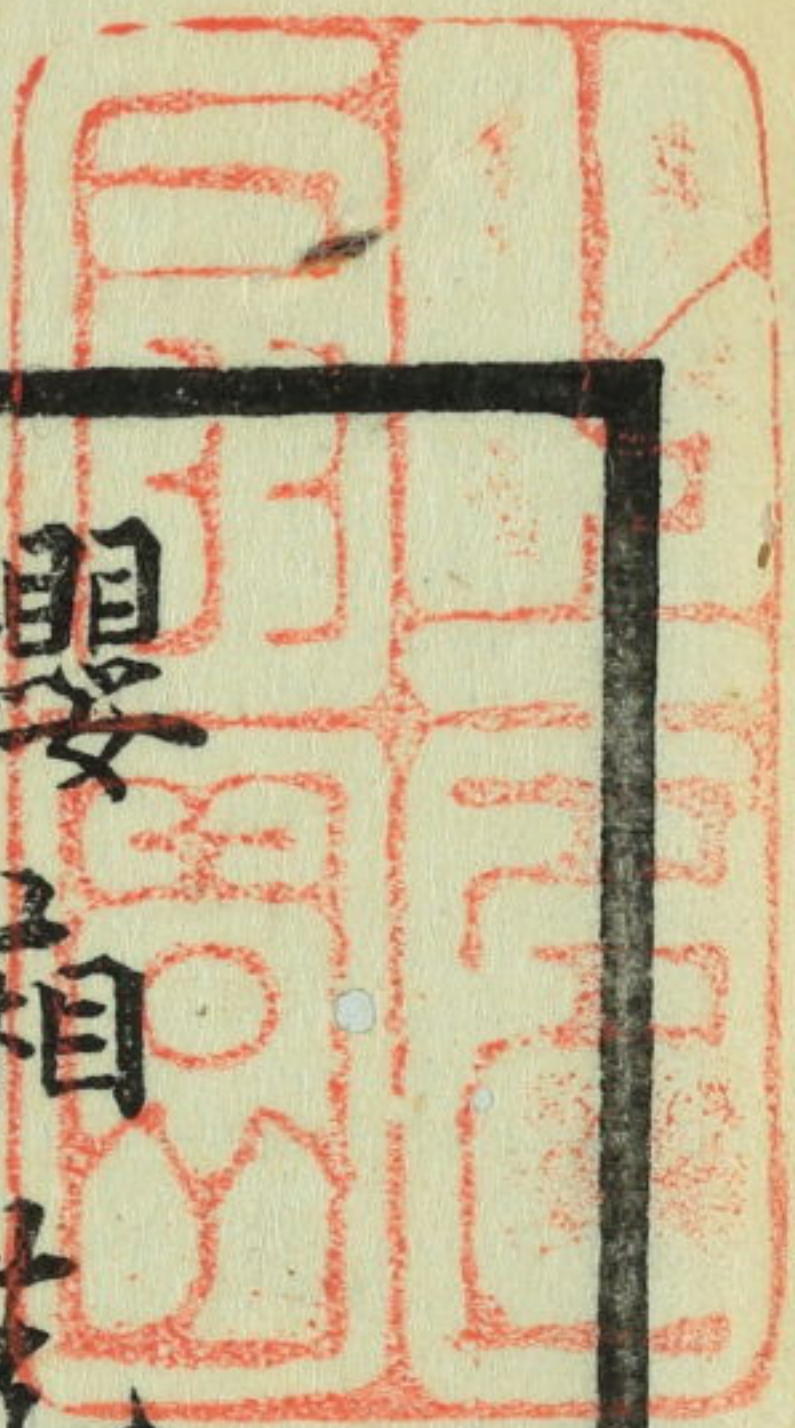


越雪中大人撰

俳諧
瓶乃余感二編

京都

湖月堂梓



櫻廂先生曾戲輯俳句
數體為一冊題曰瓶茶
袋上梓公世門人乞二
編先生諾而不果下世
已五季其友六々亭主

久保

人繼遺意成之請序予
受禱更覺新奇主人姓
日下名明字士明號成
雅自少小好狂歌問之
朱樂漢江漢江余其號
越雪中蓋柿雪一字於

越中問云近營一小室
于後園壁上畫俳諧世
六歌仙因改今號市村
少年就學俳諧者不可
拳數然其教在主人則
出緒餘耳世人勿敢作

尋常一様俳諧要者之
者^ラ

文政丙戌夏日

高岡 浩齋健題



凡例

○此編と扱乃々金袋と取せたる梅相之人の原
 きさきやうふらうらふらふなう白の生かす
 扱乃々金袋と入野首と送る人きさき
 集めたるやうに致したるは
 ○きさき首上皇の御製衣公卿の扱乃々とせ
 るは編乃例不備二編の扱とす
 ○あつらひの扱乃々を連句十首の扱乃々を
 二冊の扱乃々を二冊の扱乃々を
 一冊の扱乃々を一冊の扱乃々を
 一冊の扱乃々を一冊の扱乃々を

〇 作者の所書は、いふに紀世の事なり
 〇 作者の所書は、いふに紀世の事なり
 〇 作者の所書は、いふに紀世の事なり
 〇 作者の所書は、いふに紀世の事なり
 〇 作者の所書は、いふに紀世の事なり

雪申 藝文



細くは

〜

〜

〜

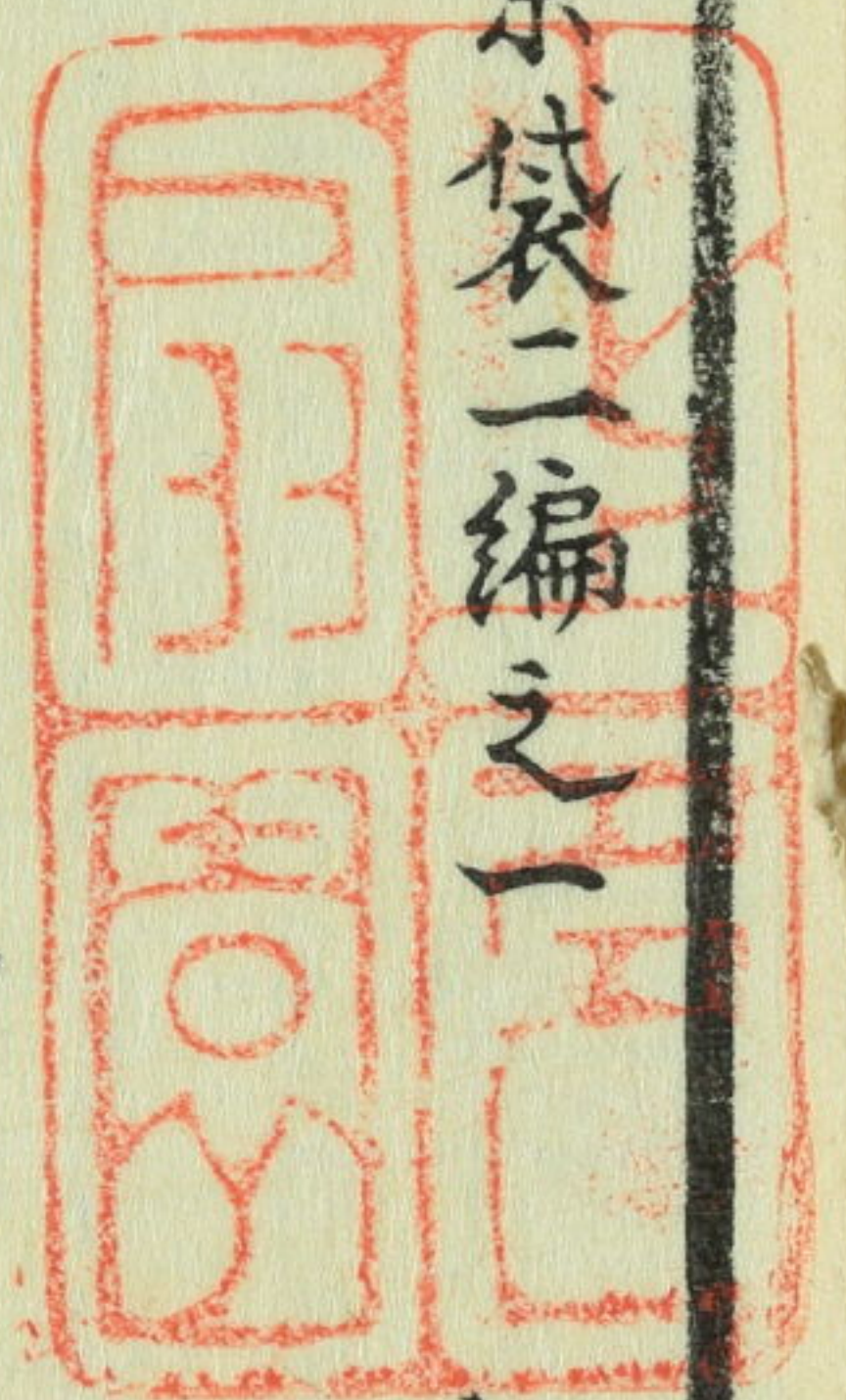
あはれの思ふ人





俳諧瓶茶袋二編之一

越雪中撰



大納言

いささくはなはる鐘より後ぬ 為世卿

鳥丸

あまふくろ折あれも時多 光廣卿

うらやまおちたはかりまのさる 合

辺衛殿下

あまのよふしはまゝはるはのま 信守公


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

秋
花

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

朝  
菊

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

か
ん
長

前句附難題

越雪中按

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

不動連

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

雪中

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

六

Handwritten text in a cursive script, likely a list or series of entries, enclosed in a rectangular border. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. The script is highly stylized and difficult to decipher, but appears to be organized into several lines, possibly representing a sequence of items or a set of instructions. The lines are separated by wavy lines.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page, enclosed in a rectangular border. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. The script is highly stylized and difficult to decipher, but appears to be organized into several lines, possibly representing a sequence of items or a set of instructions. The lines are separated by wavy lines.

みづるゝのゝまをぢぢぢ

牛の皮を結となつてぢぢぢ

夫もくみぢぢのぢぢぢ

虱とつゝめぢぢのぢぢぢ

虫もぢぢのぢぢぢ

情をいぢぢのぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

啞牛の皮を結する陣太鼓

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢのぢぢぢぢぢぢぢぢ

氏

洞霞

雪中

号号

細雲

七火

まのこ味をん牛はぢぢぢ

口にくとぢぢぢのぢぢぢ

ぢぢぢもぢぢぢのぢぢぢ

質蔵

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

姉もぢぢぢのぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

風もぢぢぢのぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

玉宇

巴白

福園

かつこ

山々々々々々々々々々

帳々々々々々々々々々々々

やま

地獄乃をけねるの鬼

助舟を尾くさるる刺々々

恨味

大せんを曳て目んよめ

須弥山々々々々階子の有あつ

守太

よ〜〜〜のりまきとめさ

悟とえ〜〜物と燃すのきまのか

全

一句五部

越雪中撰

大勢のそ〜〜うえらふ毎ひり

集雅ふ年

古掛うま〜〜えん思〜〜りりり

可丈

一ひあふとお目とを度よお〜〜り

石動

よみ向う侍のゆ〜〜ゆゆゆ

天洲ま

ゆゆ〜〜らら〜〜ゆゆゆゆゆゆ

技川

まゆ柳う蔭の値と渡き〜〜り

蛙柳

足後が足折のゆよ集とある

柳下

おまのまきしるびで俵とすまて
後らうまをとり母ておれり
後り酒う後らりおれり
夕くけふお母のてうう後あつて
梅月と尻うううすふそり
縁のあやう時春んく起り
おれり子林うまう
えとじのまき油と後り
引細ふ大窓のさうり
大あうはとあ中らう

七父
松原
北柳
哥人
井梧
羽白
成美
雪丸
影流
彰海

仲子あてあほ系り尾よ
おれり女をとりとまを遊れり
けりやては戸の去年と後り
あはるとまをて俵うねふ
あはふ不舞とあ合時よ
呑めう二人の命あうり
うん女う精進はく呑えん
あはとあうり
況在の地獄へ者女あらふ

雪中
女音
雪中
加白
西苗
如泉
一
鳥
春柳
雪中

後其う二交の終るは浴き、
後其う出代りのつたふは浴き、
故さうふ大師と冬きて森へ入り
被待うつ後の相といききり
さうりのふり信うさへんさういり
さうきり信うたせさななり
あうたみう信うたせさななり
少むすあうさへんさうはてきこ
左近を信のさういりさう
出代りう宮内のはいりい

今 今
脇和
魯雲
雪中
井栞
鹿勢
紫隼
技川
張味

らうか小籠入さうて控らう
あうさあうさうすの舞うた
さうらうとあ利らあうけうん
うりやうこ信うたせさななり
さうさうさうさうさうさう
被待うつ信うたせさななり
はてきこさうさうさうさう
さうさうの信うたせさななり
さうさうの信うたせさななり
さうさうの信うたせさななり

イロハ
春
松年
夷坐
紺平
柳下
鬼角
二白
松原
俵

出づるのまゝにむらさきの色に
ゆきしるまゝの雪の白とてま
出づるのまゝにむらさきの色に
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま

雪中
全
全
集雅
影後
入花
一笑
花水
中
枝川

ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま
ゆきしるまゝの雪の白とてま

握升
藤棚
鬼角
二白
住吉
大橋
松原
集雅
東鴨

乙

竹のまう田かむしんをゆまし
人かむしんをさうくつむし
よこの智しと建てりまてせく
けりまうしんをゆまし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし

尚紋
集雅
可夫
井栝
羽白
大橋
釜原
井原
水原

竹のまう田かむしんをゆまし
人かむしんをさうくつむし
よこの智しと建てりまてせく
けりまうしんをゆまし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし
まうしんをさうくつむし

菴石
秀丈
一紫
集雅
云浦
梅原
物下
雪中
羽白

くらまの卓くく雪う雪下まてこ
昨日の雪くく氷うまをさるひく
雨漏とてぬ梅くく雪くく
出代ふ雪くく雪くく雪くく
何くくく雪くく雪くく雪くく
くらまの竹うくく雪くく雪くく
梅血くくくく雪くく雪くく
おんけふ小判くくくく雪くく
えぬの雪くく雪くく雪くく
川くく雪くく雪くく雪くく

和祐角
一 笑
柳下
黄花
飛柳
枝川
白八
黒子
黒子
赤松

おんけふの雪くく雪くく雪くく
昨日の雪くく雪くく雪くく
口まめくく雪くく雪くく雪くく
雪くく雪くく雪くく雪くく
くくくく雪くく雪くく雪くく
雪くく雪くく雪くく雪くく
提灯くく雪くく雪くく雪くく
雪くく雪くく雪くく雪くく
おんけふの雪くく雪くく雪くく
おんけふの雪くく雪くく雪くく
小浜市くく雪くく雪くく雪くく

今
銀久
一 笑
森棚
一 笑
松原
多 鴨善
都文
蛸洲

日徳小苗終りてあつらひ
 糸糸と蛇と舞くやうに
 妻をけりて古来の子うら
 舞をくれば狗ふ乳とけり
 ままのたけをくはくは
 けりおよぶるけりて
 けりおのほほほの猫の月
 けりおのほほほの猫の月
 けりおのほほほの猫の月
 けりおのほほほの猫の月

末首
 ねん
 雪中
 全
 水原
 不知
 不知
 雪中

拍子きふ蚊くまをきと
 ましつらと木の葉くら
 わくくめ鯨ふ花の
 後こそまをさふまを
 ともはくくし子けり
 まりしとこえのけと
 かくまをきと機く
 まらふとくくま
 陣山をきと花の
 まくくまをきと

利
 雪中
 二佐
 佐賀
 二白
 貴山
 油三
 二白
 全

すらの秋うきあはせまゝし
後物うきあはせまゝし
さむいりてさむいりて
押しあはせまゝし
ハなすうきあはせまゝし
あはせまゝし
雷うきあはせまゝし
舟うきあはせまゝし
早うきあはせまゝし
掃うきあはせまゝし

二白
雪中
一笑
物棗
二哉
焉々
今
中彦
登不
牧翁

すらの刀ふと伸とせまゝし
後物入うきあはせまゝし
肩衣うきあはせまゝし
あはせまゝし
さむいりてさむいりて
さむいりてさむいりて
さむいりてさむいりて
さむいりてさむいりて
さむいりてさむいりて
さむいりてさむいりて

不知
舟棗
荒侯
二白
一胤
秋左
兼海
丹厓
言考
古ハ

乃未とあしとまよふのせきり
 移るふきまじりて通るる
 中しきと梅のまじりてあはれ
 中しきふかしのあはれ
 不測量のまじりてあはれ
 ぬ血と握りの通るる
 ちてまじりてあはれ
 ち妻ふかしのまじりてあはれ
 ちあはれまじりてあはれ
 ちあはれまじりてあはれ

三

乃移とあしとまよふのせきり
 巫うまじりてあはれ
 乃今ふかしのまじりてあはれ
 繁葉まじりてあはれ
 村中まじりてあはれ
 かまじりてあはれ
 里まじりてあはれ
 ちあはれまじりてあはれ
 ちあはれまじりてあはれ
 中しきとまじりてあはれ

五

袋味 室紋 牧笛 五柳 枝川 谷号 気定 梶素 杉風 七父
 袋味 室紋 牧笛 五柳 枝川 谷号 気定 梶素 杉風 七父
 袋味 室紋 牧笛 五柳 枝川 谷号 気定 梶素 杉風 七父

しそふかたをひきかきしそふかたをひきかき
くさくさ心もせむし言ふことさうさう
月はおまに助の餅を喰つていこ
ううううあまのこいせむしお仲人
あまのこいと下女も様をよめあてを
ひつろりう侍つていこくさくさん
ううあまのこいさうの半うけさき
舌はうすまをさきかたのめいさか
洗滌ふたものおまのうさくおと
あつたあまのこいせむしおこいせむし

柳風
魯雲
七又
雪
鳥籠
北折
松尾
金花
北柳

とらけと妻おすくしあまのこいせむし
つろくろくろくおまのこいせむし
はろくろくおまのこいせむし
あまのこいせむしおまのこいせむし
うおとくろくおまのこいせむし
あまのこいせむしおまのこいせむし
川おくおまのこいせむし
あまのこいせむしおまのこいせむし
あまのこいせむしおまのこいせむし

玉川
眼休
大木
一川
鳥籠
守志
枝川
道河
鳥籠
北柳

るぬのりけよこさきくつり
 るぬぬちゆく鬼まよひ出
 こゝ毒と伝ふと乳母さかて居
 るつくのりせう傘よ付させ
 後程とらみさうふりり
 換白ふ侍やすはくおつり
 以んを各しお結うしうせ
 ころあよ明かおれうきうま
 絵ふつう園かうくみさうら
 らうはく羊う傘踏くり

十
 金花
 星舟
 金花
 島
 各
 花水
 中田
 眼休
 糸

新井ふぢ解た約よりまひ
 碓さうつ指うつこくお入
 るる人の口うつしくおさうり
 こゝおりの筋とすけてさうり
 腰さう後よ唾やういけ
 梅妻よアセくみ合うおさうり
 ねるのやまを都はく
 かく井ふ身ふそくおさうり
 わる古の人中う斬よ碓うん
 谷昂うさうふかへいん

十
 廣半
 哥川
 ちま
 一泪
 梅邊
 中田
 枕里
 中彦
 大木
 一泪

早速とやまの山を先とて出た
 老傍りのわが人のユリふよりけり
 こころにまよひておの影をふりせり
 矢くわむあふりしうにけり出て
 減相の勝と又せく仲人へて
 まくらふふふと伊せく獨り出て
 くらつまを隠しとゆふふふと出て
 降るあとのうへとけりし勝のまき
 らつまのうへにのびちとまらりて
 くらつまの獨りけりよまのまらり

今高

一札

中田

金花

空翠

一泪

全

結角

古寺

双寺

まくらふふふと伊せく獨り出て
 くらつまを隠しとゆふふふと出て
 降るあとのうへとけりし勝のまき
 らつまのうへにのびちとまらりて
 くらつまの獨りけりよまのまらり
 まくらふふふと伊せく獨り出て
 くらつまを隠しとゆふふふと出て
 降るあとのうへとけりし勝のまき
 らつまのうへにのびちとまらりて
 くらつまの獨りけりよまのまらり
 まくらふふふと伊せく獨り出て
 くらつまを隠しとゆふふふと出て
 降るあとのうへとけりし勝のまき
 らつまのうへにのびちとまらりて
 くらつまの獨りけりよまのまらり

号川

丹崖

後指

一巖

於年

浮橋

数畠

一洞

二白

波光

羽三
七又
厚栲
兔角
牧笛
善石
善玉
紺宗
巴

羽三
七又
厚栲
兔角
牧笛
善石
善玉
紺宗
巴

不知
生水
促母
花水
一佃
二白
羽山
手花
一泪
合

不知
生水
促母
花水
一佃
二白
羽山
手花
一泪
合

役つとめしのりのりのりのりのりのりのりのり
早いのりのりのりのりのりのりのりのり
はなのりのりのりのりのりのりのりのり
かきのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ああのりのりのりのりのりのりのりのり
おおのりのりのりのりのりのりのりのり

中ちゆうのりのりのりのりのりのりのりのり
多た多た
多た物ぶつ
良りやう物ぶつ
白はく物ぶつ
金きん架か
東とう林りん
得とく卷けん
青せい玉ぎよく
梅うめ溪けい
中ちゆう麦まき

梅溪

ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり
ままのりのりのりのりのりのりのりのり

大だい木ぼく
一いつ目め
一いつ篇ぺん
吉きち物ぶつ
船ふね山さん
一いつ日にち
吉きち物ぶつ
牧まき畜しゆく
吉きち物ぶつ
全ぜん

全

らんからきふよんふんかひんまきん
丸くまふふふふふふふふふふ
そんまふふふふふふふふふふ
かふふふふふふふふふふふふ
まふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

砂毒
牧笛
花亭
長仙
北川
又川
北物
全
道河
玉宇

五

ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

名
去
牧
部
林
部
角
文
全
巴

五

大由りよき念ひ申あつてくらり
 引ひよよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり
 ねむいふよき念ひ申あつてくらり

増

魯帝

小川

七又

一泪

北柳

松溪

三柳

小柳

浦老

全

竹さきくさう一すうに眠くらり
 くさくさくさうさうさうさうさう
 竹さきくさうさうさうさうさう
 角力あつたまふてもうさうさう
 糸つまふともうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう
 けろくろくさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう
 縫針のさうさうさうさうさう
 丹屋
 其嵐
 祐角

全

空翠

牧笛

中吉

牧笛

梅飲

梅溪

丹屋

其嵐

祐角

七

室中其母少人而仰々やれり
ちつそりくと夕の暮とけし出さ
戸ロくく牧の呼と啼きよ出さ
部屋すみか下女のせふと何ぞ居
油火おぼる白乃ききううり
又あ先お仲入のほくううい
ち出せよとまきまきとて起てせ
はちうくとりぬおのけん取こり
つあかこととく後引くをたし
あひまるとすまれと仲入ううい

一目
枝川
南老
柳枝
中ウ
梅溪
不知
牧笛
二白
蒼万

廿三

あさるくとくさる返すまきせ
とんんうまきとふく起てち
楳引お乳母も一日いれり
はちうくとま田舎とて懐つと
とんん乃まき仰くと啼きしり
ふありぬは戸におおるまきよ
乳呑る乃お乳もろろおせよ
ふのくくくおふかおとけり
おろくくおまのあまをてわ
おろくくおけりおけり

波光
牧角
七父
赤丸
鞍帯
道百
守真
其水
一泪
祐角

廿三

下子ぬの條の鴉の鳴きやうに
 草木のたけなほて葉の影は
 るかたは千さう物ように
 湯きけん人さうつづまらるるの
 けりつとて尾をかきまを連な
 次乃ちもなほの月とゆるり
 けりつとて日さう物とゆるり
 多あはるるさうては妻さうせ
 りと遠うさうぬ容の中さう
 餅ぬり白うさう安又ぬり

巴 野 七 花 井 鬼 二 鬼 花 文
 石 彦 閑 水 梧 角 白 角 水 川
 牧 留 川

廿三

馬さう撫ひ汗ぬぬ
 るさうさうぬ月さう
 けりつとて日さう物とゆるり
 多あはるるさうては妻さうせ
 りと遠うさうぬ容の中さう
 餅ぬり白うさう安又ぬり

牧 留 川
 全 全 全 全
 東 海
 一 紫 全 全
 泪 秋 乃 石

廿三

まるせぬ大粒の粒をさへて
 梅枝と圃のあつらふまゝ
 おもひよこしつゝいかにまけり
 きの鬼おほひこまぬ中てり
 かこ昇ふ都の心へ一ませり
 物まよふ命の役とせり
 ねぢきりたふし伊予きく押さる
 せりそらふふまを雷うまきり
 へらりりり又古くさる後玉と
 ろくろんうまきとと刺さるり

多川
 全
 台学
 及河
 二白
 田上
 至腐
 林清
 多川
 及河

三

仰ふまをさるる雨の
 雄りのあつらふまを
 きくお声の想とせり
 花の尖つておまきり
 松をふたつてお孫うばり
 森とくろくまをいはせて
 ねの輪とてお孫うばり
 ねをいふくまの申せり
 よもお守りお孫とせり
 後をいふくまの申せり

水仙
 一目
 花水
 扱味
 赤海
 及河
 一目
 及河
 一目
 及河

三

昔の事かきつりてはるる世に
こと返仲つる言々なる身は
ふまぢ中々私う扱出さ
る舟もはるる氣のたれ出さ
ねるつりすしるまふふれ
一たつり本事とさそりたり
付さる降る時とささるる
折山乃宮もさるる焼くさり
そのふりくさるる様もさるる
侍人よ侍つる角もさるる

巴石
二白
後世
義石
赤海
空翠
空翠
花水
石山
一泪

昔

多き分と土用うさるるおま
り妙つり口付るものさるる
あんとつるのちもさるる
中々もさるる中々もさるる
侍り侍りもさるる中々も
侍り侍りもさるる中々も
侍り侍りもさるる中々も
侍り侍りもさるる中々も
侍り侍りもさるる中々も
侍り侍りもさるる中々も
侍り侍りもさるる中々も

牧笛
柳風
石山
巴石
弁持
寺中
石川
石山
羽山
一泪

物速うまき世活う一戸あて
ゆるよなつて判方さひしあて
けつたよ世まのまき伯し
まのらうらうらちかか
あまの卵らうらうら
居るく指と杖布とま
居るくちねぶらうら
居るく一瘦やせく
いふてまのまき

一旧
教法
聖人
波光
及何
羽山
教信
眼休
才ま
令沢

月乃下とあうる居る一上
あまのあまのあまの火
さうらうらうら
経什のめままて今ま
うけとあまのあまの
あまのあまのあまの
内人まあまのあまの
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの

教信
才ま
巴石
及何
巴石
及何
才ま
大毒
令



用り幸きまきく事であらうあけ
 ちつしう日とさる程く吹上と
 大急り少偶々まう通うりり
 くく女乃く木く温ひ猫う出
 付人う故屋こく角ふ更てあ
 要うあう船ふふあれてゆ止メ
 大急りくく川くくく出
 後り遠くかすすのは用り
 大急りく後りくく、出てあ
 つまくと山あくとくくく
 一嵐 全 本二 中夕 中

戸乃くまきく鳥のさうよるか
 船屋子 絲 甚 東うりるり
 百々あやのさうとお食う
 さら船うさあくく海ふま
 くらすらと後と投て後りり
 今判うあまとさくあま
 まあやうり秋灯ふつく通
 友さうらう今さく帆よつ
 船あふりあうさ後ふ何て
 ちあめうめ細ふおあてさ
 同か 余川 大志 一嵐 島七 枝川 枝川 七又 ね竹

伊予の山と相見よふゆゑに
 ちかふるるんけく梅うけく
 遠くはるのちかふるるるる
 小舟のめしと味さしては井尾
 舟有るよまふつまう種をわんげ
 少る舟とささるく枕う口まう
 よとふかと梅のり先ふさうよ物
 しまれよまままふるるるるる
 ささるの梅うけくくくくく
 せんさよまふるるるるるる

紅井
 牧首
 ちか
 梅原
 相竹
 一篇
 集雅
 今
 之石
 谷号

賂う半の先うのさくちて
 ままめくはまふるるるる
 かささく身めくささるる
 こさくと梅んくささるる
 こささるるささるる
 ささるるささるる
 ささるるささるる
 ささるるささるる
 ささるるささるる
 ささるるささるる
 ささるるささるる

牧首
 東海
 牧首
 又川
 ちか
 梅原
 ちか

ききあやのかしらまうらむをぬき
根ちきくほきよのちきかとうくく
研もよよひよのちきとひりりり
怒はあう川かてくまはなれり
ちのちあう毎らん解集のほくたて
は深うあひく網とううりりり
かみねくおるちきんかてく
よりちよひりりあまうく密はこ
中ちきく建かてくくくスコレヤ
たきうすくくく月八里くくく

二白
気定
二白
巴ふ
道に
一白
魯ふ
子鬼

十

ちの月よんくくくはあ初め
魁り武者とくかきんくくく
雨とく梅とくはあてあきり
ちのちくく相くくくく
新声りしんくく梅くくく
あしあしあしあしあしあし
せうくくくあきんくくく
ちくくくくあきんくくく
あしあしあしあしあしあし
あしあしあしあしあしあし

まよ
今
乃何
梅皎
七又
玉宇
却夕
引世
イロハ

十

白亭
 里水
 一嵐
 横田
 島七
 横田
 赤山
 赤山
 赤山

小半
 赤山
 赤山
 赤山
 赤山
 赤山
 赤山
 赤山
 赤山

いふひとて其妻のようなめて
清ぬゝんちかきあふふか
ち月とてぬるぬく推する
ち花乃てぬるぬく推する
ちおをわいぬるぬく推する
破れぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する

大羽 巴 侯 大羽 半山 道河 根和 茶大

らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する
らぬるぬく推する

大羽 巴 侯 大羽 半山 道河 根和 茶大

舞伎備より日のあかりに本出て
目なまらぬらう如くはあきかき
梅さふらあきくねふさうけ
やまあきと懸たかふふらあき
よのあきとあきうらあきけ
あんとりのうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき

梅 破
小 半
州 国
甚 勝
大 羽
梅 皎
今
一 枝
古 美

室句附之部

あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき
あきうらあきうらあきうらあき

ふんふんふんふんふん

三

折勺部

東	暑	鱈	辛	足	三	佛	大
りつ	あつ	あつ	あつ	あつ	あつ	あつ	あつ

梅溪

三

菩薩の結と云ふことなり

カ
又題之部

支みふ

ちりくといはる稲妻のり

日百日

ちくちくやあ月日くまの年か板

く山

鬼打やまのりくまのり

戸のり

まのり人り日く後くく

三

まゝに朱

世乃鬼うつくしうらふ年のま

玉章

よはやうはくはひのたのま

モナリ
〇く部

石仲造まゝのりしちね殿
石仲みごねあつたまのま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま
まゝのりしちね殿のま

三

村守に舟を造りてはるに船にあ
りてはるに舟を造りてはるに船
毎に舟にあはるに舟を造りてはる
舟にあはるに舟を造りてはるに船
ち用て舟を造りてはるに船
舟を造りてはるに舟を造りてはる

涅槃の部

当冠の部

うりるに舟を造りてはるに船

魚附

之の靴と靴を造りてはるに船

鯉附と魚を造りてはるに船

玉付

造りてはるに舟を造りてはるに船

草子付

ふらふらまきと梅のほろろ

中入梅

妙くおもしろい東乃白の吹

信付

夢我花の輪若花の弱法師

日付

現言者太師の言を日大の太事や

戀のくらくらふらふの如

聲

宝つ〜

槌

ふりやまほけの槌ふ入のり

乙二

宝

ふりやまほけの槌ふ入のり

成美

兼

くらくらや兼の如代のり

寸來

建

梅子建のり〜

長翠

迴文

雪の妻くくまこくくおわりの内
 なるちんちん清くまをまをわんま
 ちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちん

相
 孤南
 葛三
 雪中
 其角

俳諧流の茶袋二編追加

六々其成雅集

四季混雑雑句

まゆやまゆつらつらのや下より
 つらつらつらつらつらつらつらつら
 馬ち更も杜の末く千曲川
 空のあや月よ向す目さへ一姫
 つらつらつらつらつらつらつらつら
 ののののののののののののののの
 ちんちんちんちんちんちんちんちん

烏翁
 芦洲

おしりのかさねのふかきつゆのせき
桐火の精よりうつるまじりたて
光とちやふのけさるうの光
縁のきつとぬもさむかぢの
猿おこしよ舞う出さるうの月
海の棠のさやとさむかく張を揃
りさりやころり舞のけさるあそ
むしりあかしくやらさのあそ
なのおのさむさむあみや細るす
枕灯と柳よむす入ふあつうふ

夾車

梧舟

と村畝
西畝

埴かきや平時うづけよあ、細
お屏のむすくをあれたぬさるう
炬ろせきさやあまのほけさ
ほほよたみのえりおし梅の花
田いぬとくおとさるうおのひ
月とけら細いさくもあさるう
うのさやあさるうとささるうあさるう
ふみさるうささるうあさるう
ささるうあさるうあさるう
木啄らくささるうささるう

井梧

三尾、
一鼠

ともみちをたふふあひく少き外
 居かめさきうもせいらくわら山
 結まななうあきまはくふ
 格ふるや岡まき舞ふくらのさ
 埋りふらう勢のさおね外
 連翹やまぬのはやそけさる
 久くちやちのやそけさる
 百十のさきまそ雷のさき外
 結くつてくつてくつてあきさ
 おろきふはもくくあきさ

今、
浦海

植生、
電毛

天、
天例

ともみちの
 勢の
 結まななう
 格ふるや
 埋りふらう
 連翹やまぬ
 久くちやち
 百十のさき
 結くつてく
 おろきふは

辰屋長住



義孝筆

徳

ちりあつて後へ杖の尻
 とろきと膝で池のわきを花
 おろ粘よりりりきまのそお

けきすうけはよはあのを
 ちまひやうりあれと右の自

ちのこしはかまきりけ
 ちのちやあまはあまのさ

ちのちのちへんせいのま
 あまのちへんせいのま

ちのちのちへんせいのま
 ちのちのちへんせいのま

如泉

如泉

如泉

如泉

如泉

目なまのちへんせいのま
 ぶ東のはよあおれ月

加伯

ちのちのちへんせいのま
 ちのちのちへんせいのま

ちのちのちへんせいのま
 ちのちのちへんせいのま

如泉

ちのちのちへんせいのま
 ちのちのちへんせいのま

如泉

谷川のちへんせいのま
 のはのちへんせいのま

如泉

高桂
 菅根
 邑凌
 五風
 季由
 金英
 完二
 里水
 由風
 比味

半蕉
 ち中
 千枕
 持山
 戸丈
 李村
 玉芝
 松臺
 交字
 玉取

龍
 山

おろり

平道古

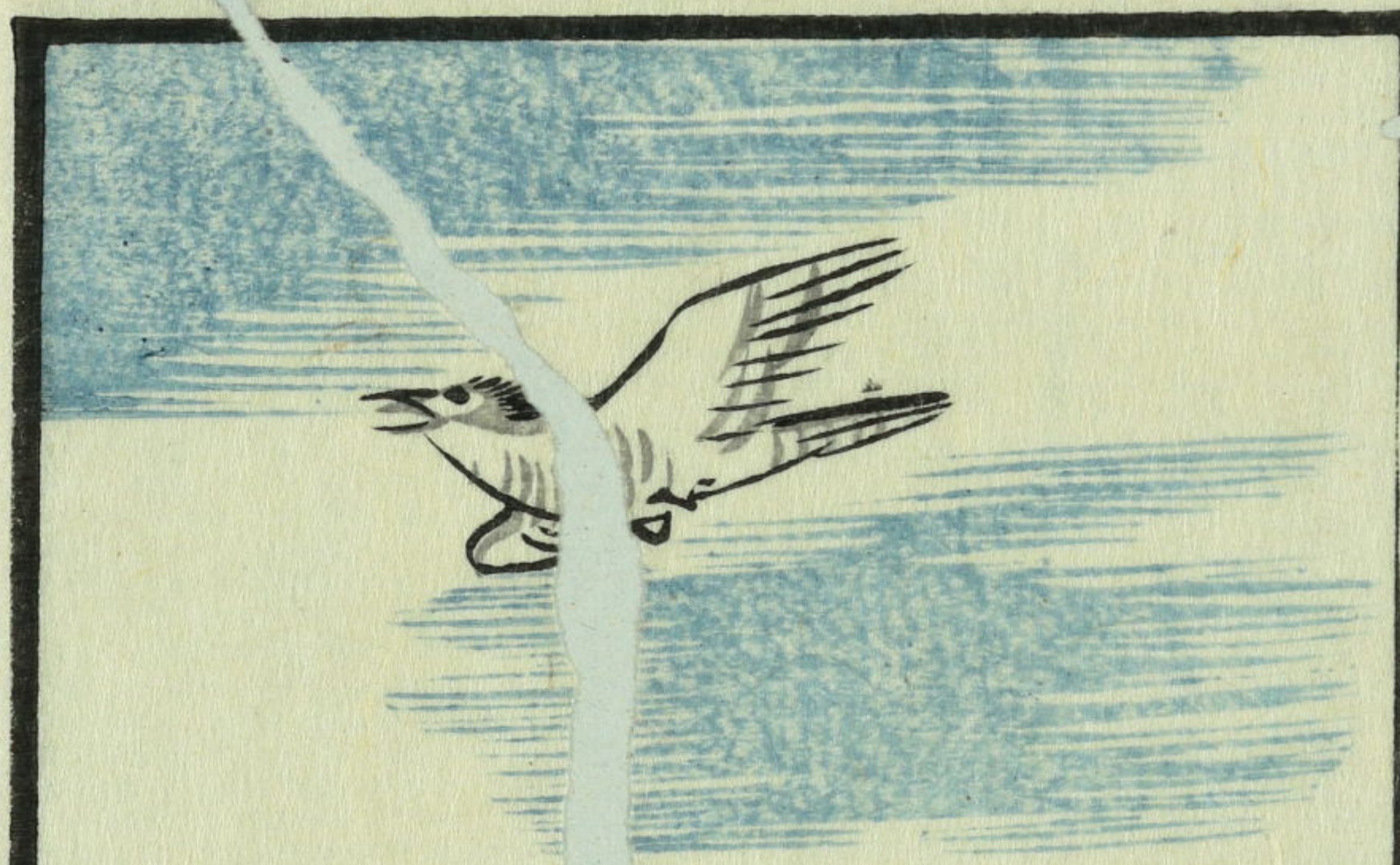
おろり

おろり

おろり

おろりの口

おろり



雲のうらとくえしし柳うら
 しききお栗もかしあやあ外
 たちあり竹津とまらちまの丸
 おろりの山なうねおろりお
 おろりお栗もかしあやあ外
 おろりお栗もかしあやあ外
 おろりお栗もかしあやあ外
 おろりお栗もかしあやあ外
 おろりお栗もかしあやあ外
 おろりお栗もかしあやあ外
 おろりお栗もかしあやあ外

不気 歳月
 秋夏
 土夏
 中田
 ほ雪
 菴明
 柳丸
 小森
 林信
 文其

あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと

浦枝
其上
木赤
紋上
春路
逸川
提壺
乙丸
やま

あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと
あまのつとくをばらばらと

石井 斗明
草風
二岳
里内
恨和
十花
童枝
旭卓
芦灯
里此

蓮花

牛の尾の毛をとりやけの毛を
 白くしめおぼろぎの毛を
 巨匠の毛をとりやけの毛を
 馬水の毛をとりやけの毛を
 梨子の毛をとりやけの毛を
 玉子の毛をとりやけの毛を
 味車の毛をとりやけの毛を
 令舟の毛をとりやけの毛を

却と
 白守
 巨匠
 里杏
 馬水
 梨子
 玉子
 味車
 令舟

糸ころ
 ちせの毛

おぼろぎ

おぼろぎ

ちせの毛

酒をき安



徳林

ちかひやふすりかのみまやまのね
 らもあともちかひらさし
 田つらやらの林やらのの上
 りのあーとちよとちよちよちよ
 次へのおやあーのちかひ一ツ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ

春を
 虎勢
 吉人
 東行
 松川
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ

ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ
 ちかひのちかひのちかひのちかひ

ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ
 ちかひ

巻九

ちのこしをまきや海の新くり
 むしころのぬのさかきさき
 めもさやまのぼしよたさき
 ろあさのさむねあやあきの
 ころかきやなめあきこふく
 用やさくらさたる播くろか
 さいまきやまきあき
 むしころのぬのさかき
 登岸

墨仙
 文自
 一板
 美川
 屏風
 里春
 美京
 炭光
 古言
 登岸

あてふむを眺るきこり二日月
 少甲さみのあゆみゆきやこころ
 乃播の鳥さかき赤とんが
 火灯のほしむすまのあきの
 ろあきやまきあき
 二葉のしんあきよのあき
 ろあきやまきあき
 ろあきやまきあき
 ころかきやなめあきこふく
 ころかきやなめあきこふく

千束
 其江
 如絲
 雪風
 文里
 加阜
 尺を
 美舟
 ころか
 ころか

来章ぬ

あゝあゝ

きんぎょ

うさぎ

衣川

うさぎ

月の

えい

澤帆足



川ゆかりの長ふらふらゆかりのあ

カク

有る

ゆかりのあゆやまのり

桜廂

ゆかりのあゆやまのり

蓬別

ゆかりのあゆやまのり

百花

ゆかりのあゆやまのり

幸哉

ゆかりのあゆやまのり

高島

ゆかりのあゆやまのり

松年

ゆかりのあゆやまのり

之方

ゆかりのあゆやまのり

岩管

信一

白羊
成雅

櫻相入嚮ふ拙くも宗師中と名をへし後て
二編と稱くも思ふに建てるべし
今一編と稱くも思ふに建てるべし
年一編と稱くも思ふに建てるべし
一編と稱くも思ふに建てるべし
廿一編と稱くも思ふに建てるべし
廿一編と稱くも思ふに建てるべし
廿一編と稱くも思ふに建てるべし
廿一編と稱くも思ふに建てるべし
廿一編と稱くも思ふに建てるべし

せりすれおのこまきくゝるまといふか
それ編とせせらやうく不復辨の解
とたの鶴雀の笑の更にも野鳥の眼ふ
こもさす不思さるるあさるい
いふふくくい焼くよあふこく
すあま

文政十一年

中



瓶茶袋三編 近々出版

雪中狂歌集 近刻

同 王文集 全

文政十一年戊子霜月

京都東洞院佛光寺上町

御集丹摺物所 湖月堂菊屋平兵衛

